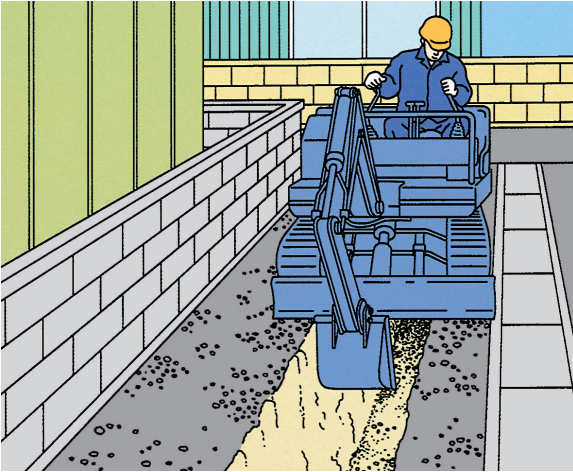
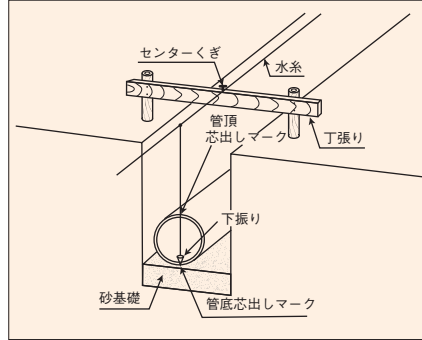


塩ビ製小口径マンホールの施工

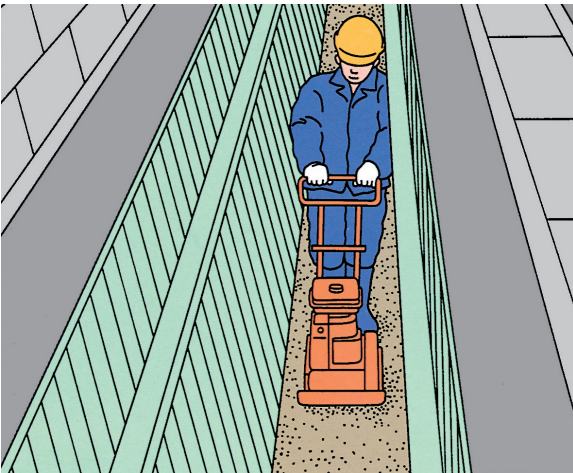
掘削



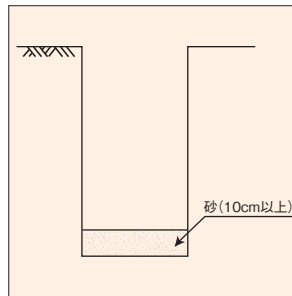
- ①掘削は、原則として管路掘削と同一幅で行えます。
- ②深く掘過ぎたり凹凸のないよう平坦に根切りし、基礎となる地盤を乱さないようにします。
- ③管路こう配に合わせて平坦に床付け面の仕上げを行います。



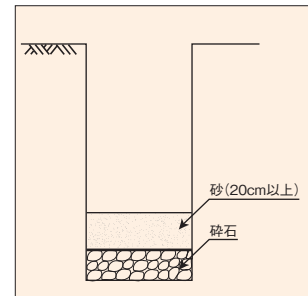
基礎



- ①基礎は、設計管底高を確認しながら、良質な砂質土を用い振動コンパクターなどで十分に転圧します。 ●ゴム輪接合部分は継手掘りしておきます。
- ②転圧後、パイプ及びインパートを仮置きし設置位置や深さを確認します。

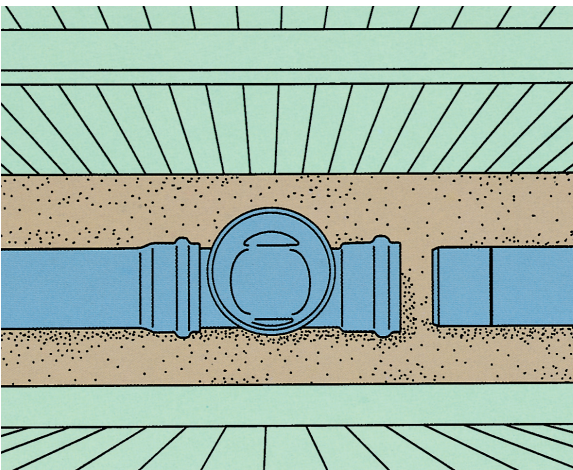


- 砂基礎の厚さは10cm～20cm程度を基準とします。

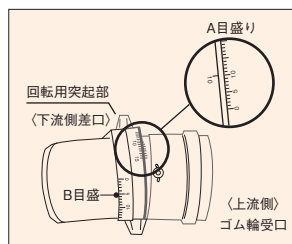


- 地盤が軟弱な場合は碎石・割栗石などで置き換え、30cm程度の砂基礎を施します。

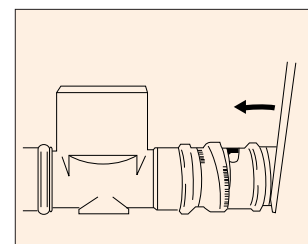
据付・接合



- ①配管は下流側より順序よく接合していきます。AHRインパートの下流側は、ゴム輪受口直管などを用い、原則としてゴム輪接合にします。
- ②ゴム輪を外して仮接合し、管とインパートのこう配、位置や深さを確認。
- ③ゴム輪接合は、塩ビ管接合同様、滑剤、管挿入機などを使用し行う。
- ④接合後は必ずチェックゲージでゴム輪の状態を確認する。(全周)

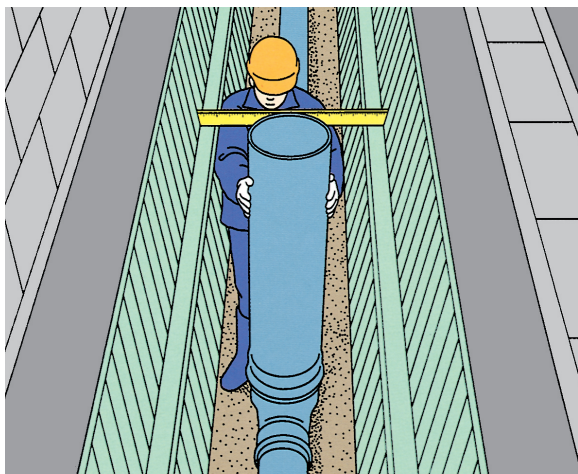


- 仮接合時に、V型自在及びインパートに合わせマークを記入しておきます。

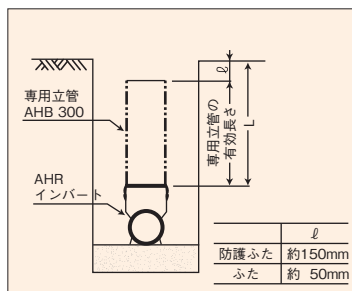


- 本接合時、V型自在を0°に戻して挿入します。挿入後回転させ、記入した合わせマークの位置(角度)に戻します。

立管接合

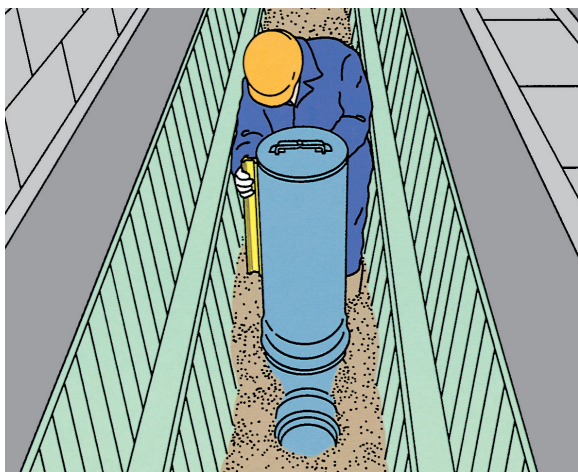


- ①専用立管の管端を必要長さに切断、面取りをします。
 - ②インパート差口と専用立管のゴム輪受口に滑剤を塗布し、受口ストッパーまで差し込み接合します。
 - ③専用立管は原則として垂直に立ち上げます。(水準器などで確認します。)
 - ④立管の上部にあらかじめ内ふたを取付けておきます。
- 内ふたのゴム輪に滑剤を塗布し専用立管も内径に挿入します。

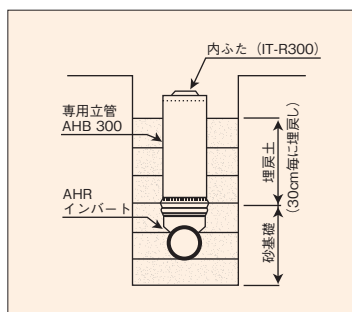


- 専用立管の必要有効長は、地表面からインパート天端までの距離(L) - ふたまたは防護ふたの厚み(ℓ)となります。
- マンホールの計画設置深さから、あらかじめ長さの専用立管を用意してください。

埋戻し

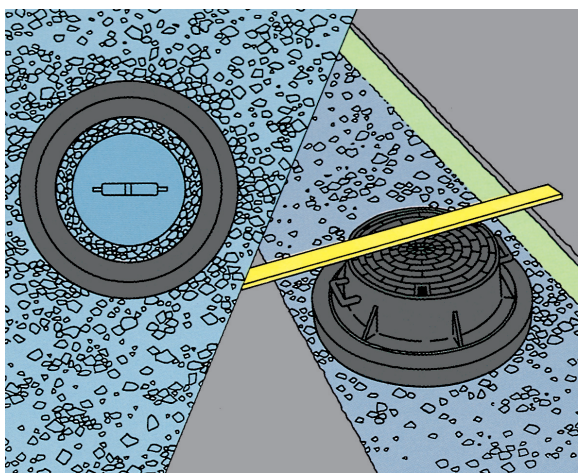


- ①管頂10cm以上になるまで砂で埋め戻します。
- インパートが移動しないよう注意し左右均等に締め固め、仮固定した杭などは工程に合わせて順次取り除いてください。
- ②埋め戻しは良質な材料を用いて行います。
- 特に現場発生土を用いる場合には、石、ガレキ、木片などの固形物を一緒に埋め込まないように注意してください。



- 専用立管が傾かないようチェックしながら、30cm程度毎何層かに分けて左右均等に十分締め固めます。

防護ふた・ふたの設置



- ①防護ふたの基礎は粒調砕石など締め固めやすい良質な材料を用い十分締め固めます。(10~20cm)
- ②沈下防止板の据付面は地表面のこう配に合わせて所定の高さ、こう配に仕上げます。
- ③沈下防止板及び防護ふたを専用立管と同芯になるよう据付けます。
沈下防止板及び防護ふたがずれないように注意し周囲を均等に埋め戻します。
- ④防護ふた・ふたの周囲は特に入念に転圧してください。
- ⑤防護ふた・ふたは地表面の傾斜に合わせて設置できます。
- 防護ふた(～15°)・ふた(～5°)
- ⑥ふたで高さ調整・傾斜調整した場合は必ずコンクリート防護などで固定してください。